

生活を支えるリハビリ職員の心得

～本音で語った四か条～

介護老人保健施設
ケアセンターゆうゆう
安藤祐介

静岡県焼津市田尻4
Tel:054-625-0321
Fax:054-625-0322

第一条 リハビリは去るべし！

生活の場で機能回復訓練に精を出しているリハビリ職員たちにお伝えします。
はっきり言って、訓練をやってもやらなくても利用者は大して変わりません。
ただちに中止して、ありのままの利用者を受け入れましょう。
訓練の中止が怖いとすれば、それは利用者のためではなく
あなたの仕事がなくなることへの恐れじゃないですか？
生活を支えるリハビリ職員の役割は、リハビリがいなくても成り立つ生活づくりです。
利用者の前から少しずつ姿を消し、いずれ必要のない存在になりましょう。
悲しむ必要も戸惑う必要ありません。あなたがいなくても元気な利用者の姿は、
あなたが自分の仕事を無事まっとうした最高の結果なんですから。

第二条 利用者よりも、まず職員！

利用者の生活を本当の意味で支えているのは、直接ケアをしている介護職員です。
介護職員がケアしやすくなれば、利用者も連動して暮らしやすくなります。
生活を支えるリハビリ職員は、利用者を見る前に介護職員を気遣いましょう。
「利用者のために！」という想いは、利用者に向けているだけでは足りんです。
最優先事項として、職員がケアしやすい環境を整えましょう。
車いすの種類、テーブルの高さ、手すりの位置…たった数cmの工夫がケアを劇的に変えます。
時間もお金も無いのは承知しています。
ですが、環境は一度整えば全職員と全利用者に末永くハッピーをもたらす強力な介入です。
あなたが手間暇をかけただけの十分すぎるリターンがありますよ。

第三条 利用者の姿は、ケアの結果！

生きるために必要な力は、生きることで身につきます。
毎日立っている人は特別な運動をしなくても立てる力がありますし、
よく喋る人は嘸んだり飲み込んだりするのを年をとっても得意です。
毎日していないことは、いずれできなくなります。
いまの利用者の姿は、そこで生きるために必要な力が反映された鏡だと思ってください。
してきたケアの結果は、もう目の前の利用者に出ているんです。
利用者に元気になってほしいなら、利用者の体ではなく『毎日の生活』を変えましょう。
生活が変われば、そこで必要とされる力が自然と身につきます。
リハビリ職員の真骨頂は、生活そのものへの“介入力”なんです。
繰り返しますが、訓練に精を出している時間はないんです。どんどん生活に飛び込みましょう。

第四条 みんなと一緒に成長する！

リハビリ職員は色々な知識を身につけていることが多く、何かと頼られます。
頼られるのはあなたが優秀たる所以ですが、頼られ過ぎには注意が必要です。
あなたが大変だからじゃありませんよ。あなたに仕事が集まると、他の職員が成長できないからです。
極論ですが、仕事を抱えている人は、他の職員が成長するチャンスを奪っているんです。
利用者には24時間365日様々な能力の職員がかかわりますよね。
優秀な職員が多い日とそうでない日とで、利用者の暮らしぶりまで変わってしまうのが現場の実情です。
だから、利用者に快適に暮らしてもらうには『職員1人1人の成長』が欠かせないんです。
リハビリ職員は、組織全体の成長を全力で応援しましょう。

じゃあ頼まれる仕事を全部拒否すればいいかって、実際そうもいきませんよね(笑)

これからも仕事はガッツリ頼まれましょう。

そのうえで、頼まれた仕事を組織上一緒に取り組む必要がある職員とともにやり遂げることが、
僕たちリハビリ職員の秘められた役割なんです。

「この仕事は担当の職員と相談して一緒に進めよう」

「あの内容を現場に伝えるのは主任にお願いしよう」

その際には、職員の能力と位置付けを見極めておく技量が必要です。もち関係性も。
これを続けられれば、いずれ頼りなる職員だらけになり、利用者も格段に暮らしやすくなります。

え、ちょっと大変そう？—はい、本音は結構大変です。

ですが、僕はこれもリハビリ職員が頂いている(介護職員よりもちょびっと高い)給料分の仕事だと思っています。

まじめな話、利用者だけを見ていても利用者の暮らしは良くならないんです。ならないんですよ、本当。

ここまで話したことは、どこか遠回りな気がしても実は近道なんです。

そして、着実に素敵な未来につながる道です。

あなたが歩いている道は、どこに通じていますか。